

外国人の防災対策

茅野市 6カ国語でカード作成

茅野市は、外国籍市民向けに災害時の対応などをまとめた中国語、ポルトガル語、タガログ語、英語、ハンガール語、スペイン語の6カ国語の「防災カード」と「防災ガイド」を作った。外国人を支援するNPO法人「ねこじゃらし茅野」が協力し、外国

避難法ガイドも

人の視点を取り入れたのが特徴。東日本大震災の発生も踏まえ、防災意識の高揚を図り、万一の災害に備えて活用してもらいたい考えた。いずれも市役所で無料配布する。

(高木敏雄)

防災カードは折り畳むと「氏名、住所、生年月日、ドサインズ、財布など」に血液型などの個人情報を入れて持ち歩ける。「避難するようになって、日本に難所に連れて行ってください」「救急車を呼んでください」など緊急時に助けを求めたいメッセージが書かれ、裏面



茅野市が外国籍市民向けに作った「防災カード」

法がまとめられており、壁などに張ってもらおう。地震が少ない国から来た人は、揺れに驚いてはだしのまま外に飛び出したり、災害で避難勧告などが発令されたり、防災無線や緊急車両が広報していても

気にしないなど、日本人と比べて防災意識が希薄な傾向があるという。このため、慌てて外に飛び出さず、落ち着いて行動することや、防災無線をよく聞くこと、避難所では

共同生活のためのルールが決められていることなど、基本的な内容を中心に記載した。市防災対策課は昨年秋から作成に着手。「これまで他の自治体で作られたものは行政からの一方的な内容がほとんどで、見てもえなかった。ねこじゃらし茅野と協議し、外国人の特徴を踏まえて作った」という。同法人の岡元春美代表は「シンプルで分かりやすい」と話していた。市内の外国人登録者数は929人(3月末現在)、6カ国語で86%を網羅でき、残りは

英語版と振り仮名付き日本語版で代用できるといふ。